

〈その他〉

健康危機管理の授業での避難所運営ゲーム(HUG)を用いた 地域住民との協働

Collaboration with residents using the evacuation shelter management game (HUG) in health crisis management classes.

山本三希子¹ 伊藤美千代¹

1 東京医療保健大学 千葉看護学部 看護学科

Mikiko YAMAMOTO¹, Michiyo ITO¹

1 Division of Nursing, Chiba Faculty of Nursing, Tokyo Healthcare University

要 旨：目的：千葉看護学部における地域の健康危機管理と施策化・事業化の授業で、避難所運営ゲーム (HUG) を用いた地域住民との協働による教育を振り返り、今後の課題について検討した。

方法：大学所在地の児童委員・民生委員 4 人に避難所運営ゲーム (HUG) を用いた授業に参加していただき、学生はその授業での学修成果を公開講座で発表をした。授業での学びの共有と、公開講座の発表資料から学生の学びを考察した。

結果：学生が地域住民と避難所運営ゲーム (HUG) を実践することは、地域住民とのコミュニケーションを通じて協働・連携を体験することができた。さらに学生は地域住民とコミュニケーションから、今まで学んだ看護の知識を活かし災害時の保健師の役割を考えることへもつながる学修ができた。

結論：今後は協働する地域住民を広げていく必要がある。またこの学びは、災害看護や地域看護へつながるため看護学生へ広く伝えていく必要がある。

Abstract : Purpose : This study aimed to examine the implementation of a shelter management game (HUG) in educational settings that fosters collaboration between nursing students and community residents within health crisis management and health policy development courses at the Chiba Faculty of Nursing and identify future challenges.

Methods : Four child welfare committee members and social welfare commissioners from the university participated in a class utilizing the HUG. Students subsequently presented their learning outcomes during a public lecture. The educational experiences from the class sessions and presentation materials from the public lectures were analyzed to examine student learning outcomes.

Results : Through participation in the HUG alongside community residents, students developed collaborative skills via meaningful community engagement. This interaction with residents enabled students to explore the role of health nurses in disaster situations while integrating their existing nursing knowledge.

Conclusion : Future initiatives should expand collaborative opportunities to encompass a broader spectrum of community residents. Additionally, these educational experiences should be disseminated more widely among nursing students, as they effectively bridge disaster nursing and community nursing practice.

キーワード：健康危機管理、避難所運営ゲーム(HUG)、地域住民、協働、保健師学生

Keywords : health crisis management, Shelter Management Game (HUG), residents,collaboration,
public health nursing students.

I . はじめに

2021年に保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令が施行された¹⁾。看護職は少子高齢化が一層進む中で多職種と連携して適切な保健・医療・福祉を提供することが期待され¹⁾ており、保健師は地域においてその要を担っていく看護専門職としての活躍が求められている。この省令に基づき、保健師学校養成所カリキュラムの中の公衆衛生看護学は、健康危機管理を内容に含め2単位が増加²⁾された。そのため千葉看護学部（以下、本学部とする）では、2024年度より地域の健康危機管理と施策化・事業化（以下、本科目とする）を新たに開講することにした。

健康危機管理は、2000年の地域保健対策の推進に関する基本的な指針の改正により、医薬品、食中毒、感染症、飲料水、その他何らかの原因により生じる国民の生命、健康の安全を脅かす事態に対して行われる健康被害の発生予防、拡大防止、治療等に関する業務であって、厚生労働省の所管に属するもの³⁾と定義がされた。千葉看護学部がある船橋市は地盤などの地域特性から風水害の発生が懸念されており⁴⁾、本学部では地域特性の理解を含めた健康危機管理の学修を進めている。

静岡県が開発した避難所運営ゲーム（Hinanzyo Unei Game;以下HUGとする）は、健康危機管理を学ぶ教材の1つである。HUGは参加者が避難所運営を任されたという想定の下、次々にやってくる避難者の多岐にわたる状況や要望を考慮しながら、迅速かつ適切な避難所運営に携わる実践能力を養う⁵⁾ことを目的としている。HUGを保健師学生への教育に用いた授業後アンケートを質的に分析した先行研究では、地震災害発生後72時間以内の避難所の状況を自分事として捉え、保健師の役割や平常時の対策についての具体的な思考につながる⁶⁾ことが報告されている。しかし災害時に避難所運営には欠かせない地域住民と協働してHUGを用いた授業の報告は見当たらない。そこで本稿では、地域住民と協働してHUGを用いた本科目の取り組みと成果及び課題について報告する。

II . 本科目の概要

1. 科目概要および到達目標

1) 科目概要

本科目の概要は、地域における健康危機管理の体制について理解しそこでの保健師の役割や活動方法についてと、地域の健康水準を高める社会資源の開発や事業の継続・立案・実施・評価のプロセスを学修することである。

2) 到達目標

本科目全体の到達目標は以下のとおりである。HUGを用いた地域住民との協働における学修での到達目標は、(2)が位置付けられている。

- (1) 地域における災害対策について理解することができる
- (2) 地域の災害対策における保健師の役割、活動について、連携・協働も含め理解することができる
- (3) 施策化・事業化のプロセスを理解し説明することができる

2. 学位授与方針との関連

本学部の学位授与方針は以下のとおりであり、本科目は(1)～(3)、(5)が位置付けられている。

- (1) 豊かな教養と人間性に支えられ、人間としての思いやり・人との絆・生命への畏敬・倫理観を持って看護を実践できる能力
- (2) 人々と社会に対する幅広い知識と医療・看護に関する専門知識・技術を論理的・統合的に活用し、様々な健康段階にある人々の安心で充実した暮らしを支える看護を実践できる能力
- (3) 看護サービスを受ける人々や他職種と効果的な関係を構築し共通の目的達成に貢献できる連携・協働能力
- (4) 看護専門職者として生涯を通じて自己研鑽し、看護実践力の向上と新たな課題発見・解決に向け自律的に取り組める能力
- (5) グローバル化・情報ネットワーク化に対応できる視野と語学・情報スキルを持って社会のニーズをとらえ創造的に応えられる能力

3. 開講時期と履修者数

3年次後期の1単位の選択科目で、保健師受験資格の必修科目となっている。3年次後期の領域別実習と時期が重ならないよう、2-3月に週に1-2回開講した。履修者数は、2024年度は保健師国家試験受験希望の16名であった。

4. 授業スケジュール

本科目の授業構成は全8回であり、1-5回は地域の健康危機管理、6-8回は地域の施策化・事業化を中心に学修を進めた(表1)。

Ⅲ. HUGを用いた地域住民との協働の実際

1. 本科目開始前の準備

本学部所在市役所の災害担当課、児童委員・民生委員の担当課、子育て支援センターの担当課へ、住民と協働をした健康危機管理の中の災害の本科目の目的や内容を説明した。その後、児童委員・民生委員の定例会議で、本科目の目的や内容、協力を得たい内容を説明し、HUGへの参加協力を依頼した。

2. 本科目の進め方

本科目の4-5回で、地域の児童委員・民生委員4名に来校していただき、学生4人と児童委員・民生委

員1人で構成されたグループでHUGを実践した。児童委員・民生委員は厚生労働大臣から委嘱され、それぞれの地域において常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努める立場であり、本科目において地域住民として適切であると判断した。HUGとは、大災害発生時の地域での現場活動(共助)、要配慮者の保護、地区災害対応本部の運営等をカード、地図、掲示板、世帯名簿を使って模擬体験し、災害対応活動について改めて考える機会とすることを目的としたゲーム⁷⁾である。1枚のカードに一つの事例またはイベント(例えば午後4時に仮設トイレが10台搬入されます)が記載されており、進行役が制限時間内にカードを次々と読み上げ、参加者は対応を求められるため切迫した状態になり、避難所の臨場感を感じられる⁷⁾特徴がある。HUG実施後、各グループでHUG実施中に判断に迷ったこと、実際の避難所運営で課題になると考えられること、災害発生時に必要な日頃の備えについてグループ内で意見交換し、最後にグループで出た意見を全体で共有した(写真1)。

3. 本科目終了後の取り組み

2025年3月に本学部で開催された公開講座で学修成果を発表した。公開講座は「災害に備えよう!一緒に

表1 地域の健康危機管理と施策化・事業化 授業内容一覧

実施回	内容
1	科目ガイダンス 災害対策の理解:県の災害マニュアル・災害マップ、疫学データを含む健康情報を活用し、災害による健康への影響を理解する
2	災害対策の理解:対象地域の災害マニュアル・災害マップ、疫学データを含む健康情報を活用し、災害による健康への影響を理解する
3	災害対策の理解:台風・大雨被害時の保健活動、東日本大震災からこれまでの災害保健活動について理解する
4	避難所での要配慮者への対応の理解 避難所運営ゲーム(HUG)を用いて、グループに分かれ、避難所運営の基本について理解する
5	避難所での要配慮者への対応の理解 ディスカッションから避難所運営に関する振り返りを行い、要配慮者への保健活動について理解する
6	施策化・事業化の理解:施策化・事業化のプロセスを理解する
7	施策化・事業化の理解:対象地域の地域診断より事業化をアセスメントする
8	施策化・事業化の理解:プレゼンテーションを基に、施策化・事業化における保健師活動について理解する



写真1 HUG 終了後の意見交換の場面

考えよう！」をテーマに、学部所在市役所の災害担当課監、独立行政法人地域医療推進機構船橋中央病院医師、本学部生が登壇した。本学部生は、本学部所在地区以外の地域住民、地区社会福祉協議会など多くの住民が公聴する中で、4グループそれぞれの学生が「HUGでの学びと地域に必要な備え」をテーマに発表をした。なお、公開講座は本学部の近隣に住む地域住民に本学部を知ってもらい、本学部と地域とのつながりをより強めることを目的とした地域交流イベントと同時開催していた。

4. 今後の展開の予定

本科目を履修した学生は、公衆衛生看護学実習として行政の備蓄関連施設の見学、保健所や保健センター保健師の健康危機管理の役割や対応を学修する予定である。その後、児童委員・民生委員が同席のもと、子育て支援センターで子育て世帯を対象とした災害時の備えで必要なことをテーマに健康教育を実践する予定である。

5. 倫理的配慮

本科目及び公開講座での地域住民の助言と意見、学生の学びが本学紀要で報告される可能性について該当学生と地域住民から、写真の掲載も含め写真撮影前に同意を得た。学生へは本科目の評価確定後に本報告の趣旨や個人が特定されないよう十分配慮し、協力は個人の自由であり、協力をしなくても個人が不利益を被らないことを口頭で説明をした。

Ⅳ．本科目と公開講座発表における HUGを用いた地域住民との 協働における学生の学び

1. HUGを用いた地域住民との協働における学生の 学び

今回は一般的な小学校の校舎内外の図面を用い、真冬の午後に地震が発生したことを仮定し、HUGを実施した。

1) 避難者を受け入れる準備に関する学び

学生は児童委員・民生委員とのコミュニケーションから「真冬だと長時間外でお待たせするのは子連れや高齢者は大変だ」「冬だと日が暮れるのが早いので早めに避難者を振り分ける必要がある」「通路は最初に確保しないと後で作ることは難しい」と意見をもらい、全てのグループが避難所の中心となる体育館の入口付近に受付を設置し、体育館内通路の決定が最初に検討していた。その後、学生は児童委員・民生委員とのコミュニケーションの中で「体育館の入口付近を受付にすると導線がスムーズになる」「体育館の出入口付近は、雨風をしのぎながら作業ができる」「通路の確保は急病人の対応や感染症蔓延予防につながるのではないかなど、避難者受け入れ時に必要な準備へ関することを言語化できていた。

2) 体育館避難者への配慮に関する学び

体育館出入口付近の避難者の配置は、高齢者、乳児がいる家庭、支援が必要な避難者、ペットを連れてきた家庭などグループによって判断が異なっていた。「高齢者は排泄間隔が短かく、下肢機能が低下しているため、校庭の仮設トイレが近い方が良いと考えた」「乳児がいると夜泣きなど気を使うので、泣いたら外に出やすい方が良いと考えた」「支援が必要な避難者は、支援者が関わりやすい場所が良いと考えた」「ペットは避難者の中に動物アレルギーの方がいるのを考えると校庭で預かることが原則であるが、大切な家族でもあり、すぐに会える場所の方が安心できると考えた」など、避難者の成長・発達や健康、生活上の課題を考慮し検討することができていた。また、その際には、児童委員・民生委員へ高齢者や乳児がいる家庭のニーズについてコミュニケーションを通し聞きながら、HUGが進められていた。

3) 要配慮者に関する学び

教室へは、発熱などの有症状者、ツアー旅行者、妊婦がいる家庭、認知症高齢者がいる家庭を配置していた。有症状者は感染症の可能性があるので、体育館ではなく教室の使用を検討する必要があると学生から意見が出されていた。さらに1つのグループでは、有症状者には他の避難者と違うフロアにある教室の使用、トイレを他の避難者と分けて設置、配膳やトイレ掃除係など関わる人は看護職や介護職の避難者に協力を得るなど、具体的な内容まで議論されていた。児童委員・民生委員からは「ツアー旅行者は一時だけの避難になり、地元の避難者と初対面であることから、ツアー旅行者だけでまとめた方が良い」と意見が出されていた。学生から「妊婦は感染症になると胎児へ影響を与えるリスクがある」と意見が出され、妊婦がいる家庭だけが1つの教室へまとめられていた。さらに学生から「認知症高齢者は新しい環境だと徘徊へつながる可能性があり、家族と静かに過ごせる場所が良い」と意見が出され、1つの教室へまとめることに加え、家族だけの空間を作るために仕切りを作ることも議論されていた。

4) 避難所内での情報の提供・共有に関する学び

児童委員・民生委員から「避難所は状況が目まぐるしく変わるので、掲示板で避難者に情報を伝えた方が良い」「この地域は外国人も多い」と意見が出されていた。学生から「日本語だけではなく英語も合わせて書いてはどうか」「重要なことは大きく太文字で書いてはどうか」と意見が出されていた。仮設トイレの設置場所、支給物品の受け取り方法など避難者が必要な情報を紙に書いたものが掲示板に貼り出されていた。

児童委員・民生委員から「避難所は住民で運営するので、炊き出しなどのお手伝いも掲示板に貼りだしてはどうか」と意見があり、学生から掲示板を避難者全員への情報、お手伝い募集、お手伝いスタッフへの情報とスペースを分けて貼りだしてはどうかと意見が出されていた。

2. 本科目後の地域住民との協働における学生の学び

2025年3月に本学部で開催された地域交流イベントの公開講座で、学生がHUGによる学びを児童委員・



写真2 地域交流イベント公開講座での質疑応答の様子

民生委員からの助言や意見を参考に検討した内容を発表し、来場者からの質問に答えることで授業での学びを振り返り深める機会となった。

学生からは、備蓄品に不足品が生じた時の対応、トイレが詰まるなどの不測の事態が生じた時の対応、医療的ケアや認知症などの要配慮者への対応に迷い、児童委員・民生委員の助言や意見を参考に検討した内容が発表された。具体的には、「備蓄品が足りない場合は避難者同士が支え合うように掲示板を活用して何が不足しているのか避難者へ伝えることを考えた」「トイレが詰まった場合は、備蓄品ではなく学校にあるバケツと、プールの水を使って排泄物を流すことを考えた」「ストーマなど医療的ケアが日常的に必要な場合はプライバシーが保たれる部屋を確保することや、車で避難している場合は車を活用で来るように駐車場所を検討した」「認知症高齢者がいる家庭は教室やテント、仕切りを活用することで、見慣れた家族だけで過ごせる空間を確保するよう考えた」などの内容が発表された。

公開講座で学生の発表を公聴した地域住民からは、「今回、本科目を学修した学生以外にも学びを共有してもらいたい」「地域住民だけでは考えられない看護の視点で避難所運営を考えられているので勉強になった」など感想があった。

V. 考察

1. 本科目でのHUGを用いた地域住民との協働に おける成果

HUGを用いた授業の到達目標「地域の災害対策における保健師の役割、活動について、連携・協働も含め理解することができる」は、達成することができたと考えられる。その理由の1つ目は、児童委員・民生委員の助言や意見を聞きながらHUGを実施することは、地域住民との連携・協働の重要性を理解する機会となったことである。2つ目としては、災害対策における保健師の役割や活動の理解を、学生が今まで学んできた感染症蔓延予防や要配慮者の対応などの看護の知識を活かし検討することができたことである。保健師学生へのHUGを用いた教育効果は、避難所の状況の理解、発災後72時間以内の避難所での保健師の役割や関係者・機関との連携調整について考えられることにつながる⁶⁾と報告されている。学生が地域住民と協働しHUGを実践することは、関係者・機関との連携調整を体験することができることに加え、看護学生として参加住民と接することができ、学生はこれまで学修して得た看護知識と現状を関連付けることや、保健師の役割を考え理解することを促していた可能性が考えられる。保健師学生の実習では、自然災害対応は体験できないが、災害発生時には保健師は即座に避難所運営をしなければならず、演習を通して健康危機管理における災害対応の実践能力の強化を図る必要がある⁶⁾と述べられている。本学部がある船橋市は風水害による自然災害に注意が必要であり、HUGを用いた演習で実践力の強化へつなげることは重要であると考えられる。

HUGを用いた地域住民との協働は、学生が看護の知識を活かして様々なことを検討することができたことにつながったため、学位授与方針「人々と社会に対する幅広い知識と医療・看護に関する専門知識・技術を論理的・統合的に活用し、様々な健康段階にある人々の安心で充実した暮らしを支える看護を実践できる能力」の養成へ寄与するものであると考えられる。また、地域住民の助言や意見を丁寧に聴きながら対応する学修は、学位授与方針「看護サービスを受ける人々や他職種と効果的な関係を構築し共通の目的達成に貢献できる連携・協働能力」の養成に寄与すると考えられる。病院が中心となり、自治会役員、管理組合職員、有料老人ホーム職員でHUGを実施した効果について、初対面の人とも話をして実施することは、災害時の避難所運営ゲームをグループで模擬体験することであり、防災教育の要⁸⁾となると報告されている。学生が地

域住民と協働して健康危機管理を学修することは、災害に関する学修に必要であると考えられる。さらに、災害時の外国人への対応を地域住民にニーズを確認しながら学修する機会となり、学位授与方針「グローバル化・情報ネットワーク化に対応できる視野と語学・情報スキルを持って社会のニーズをとらえ創造的に応えられる能力」養成に寄与する可能性があると考えられる。

2. 今後の課題

本科目での地域住民は児童委員・民生委員に限定されている。児童委員・民生委員は子どもから高齢者の幅広い地域住民の状況やニーズを把握しているため、災害時に協働する地域住民として重要である。大学生がHUGを使用し災害について学ぶメンバーとして、社会福祉協議会、社会人ボランティア⁹⁾、看護大学生へは地域の防災リーダー¹⁰⁾、町会役員¹¹⁾など、地域の状況に応じて選定されている。そのため、風水害が多い地域の状況に応じ、地域住民を児童委員・民生委員以外にも協力を得ることを検討していく必要がある。

また、公開講座を公聴した住民から、本科目に参加していない学生へにも学びを共有して欲しいという意見があった。災害はいつ発生するかわからないことから、災害時の対応について理解することは重要である。特に看護学生は、災害看護や地域看護の学修へつなげるため、看護学生に広くHUGを用いた授業をすることや、学びを共有する機会を持つことを検討する必要がある。

VI. 結論

保健師学生が健康危機管理についてHUGを用いて地域住民と協働して学修することは、地域住民との連携・協働を理解するだけではなく、これまでの学修と連動させて保健師の役割を検討することへもつながった。また、学位授与方針のグローバル化・情報ネットワーク化に対応できる能力へつなげる学びを得る機会ともなったことから、保健師学生だけではなく看護学生の学修にHUGを用いた地域住民との協働が活用できるよう、検討する必要がある。

引用文献

- 1) 文部科学省初等中等教育局長,文部科学省高等教育局長,厚生労働省医政局長.保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令の公布について(通知).2020.

- https://www.mext.go.jp/content/20201105-mxt_igaku-000006024_1.pdf(最終閲覧日:2025年6月11日).
- 2) 厚生労働省.看護基礎教育検討報告書.2018.
<https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf>(最終閲覧日:2025年6月11日).
- 3) 厚生労働省.健康危機管理基本指針.2001.
<https://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/kenkou/sisin/index.html>(最終閲覧日:2025年6月11日).
- 4) 船橋市.風水害に対する備えを行いましょう.2024.
<https://www.city.funabashi.lg.jp/bousai/taisaku/p118677.html>(最終閲覧日:2025年6月12日).
- 5) 防災教育普及協会.避難所運営ゲームHUG研修・授業実施のポイント.2015.
<https://www.bousai-edu.jp/info/kyozai-hinanjo-unei-game/>(最終閲覧日:2025年6月12日).
- 6) 田野中恭子,浜崎優子,緒方靖恵,他.保健師学生への地震発災時の避難所運営シミュレーション演習の効果検証.保健師教育 2025;9(1):76-85.
- 7) HUGのわ.HUGのわ.2017.
<https://www.hugnowa.com/>(最終閲覧日:2025年6月12日).
- 8) 森本文雄,吉岡伴樹,岩井直路.避難所運営ゲームを用いた地域災害訓練.日本臨床救急医学会誌 2017;20:36-38.
- 9) 長谷川万由美.大学における参加型シティズンシップ教育の可能性;災害ボランティア研修の実践を通しての考察.宇都宮大学教育学部教育実践紀要 2017;3:3-10.
- 10) 牧野典子,江尻晴美.新しい地域防災リーダーを育てる災害看護科目のアクティブラーニング.日本看護研究学会雑誌 2017;40(3).318.
- 11) 永井智子,吉田千文,竹内幸美,他.住民と協働して実施した地域の災害対策に関する授業の実践.聖路加国際大学紀要 2020;6:64-69.